

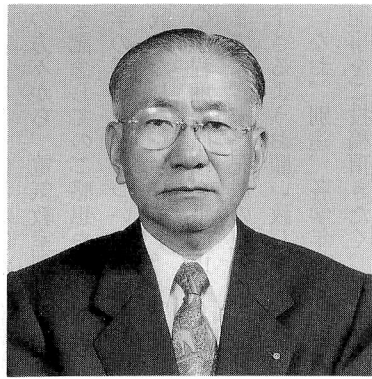
# 洛友会会報

京都大学工学部電気系教室内  
洛友会  
京都市左京区田中大堰町49  
075-701-3164

## 二十一世紀

### 飛躍を目指す中部

中部支部長 大野 彰(昭25年卒)



日本の中央に位置する此の中部地域は、二十一世紀へ向けて、大きく動こうとしています。

国家的な大プロジェクト、二〇〇五年国際博覧会は、BIE総会での投票で、カナダのカルガリーに圧勝し、愛知県瀬戸市に決定しました。そして中部に国際ハブ空港の建設も決定し、二〇〇五年日本国際博覧会(通称愛知万博)を視

野に、それに間に合わせるべく、二〇〇〇年初頭の開港を目指しております。

愛知万博のテーマは、「新しい地球創造・自然の叡智」であります。一三〇〇年の歴史を持つ瀬戸の焼物は、アジア・ヨーロッパの技術・文化を同化しつつ、日本独自の「侘茶」の道に貢献したことに想を馳せるとき、平成17年3月25日から9月25日迄185日間にわたって瀬戸の地で開催されることは、誠に意義深いものがあります。

今から30数年前、大阪万博に日本中が湧き立ちました。技術革新を基に物質文明を追い求めた時代を反映したものであります。人間の飽くなき欲望によって万物共有・共生の地球は汚染され、破壊されて来ました。こゝに至って漸く

其の非に目覚め、大自然の偉大さ、人の心の尊さに気付いたと云えましょう。かくして愛知万博はそのテーマに示すように、内容は一変することに間違いのないでしょう。

一方中部新国際空港は、愛知県常滑市沖2〜3軒の海上に建設され、第一期計画としては当面の採算性から三、五〇〇米の滑走路一本とし、年間の航空旅客は二十万人、離着陸回数十三万回迄は可能と予想されています。

関西新国際空港に較べ、水深が浅く且つ地盤が強固で工事費は割安とは云へ、事業費は八千億円にものぼり、運輸省は平成10年度事業費として41億円を要求して居ります。

アクセスは名古屋の都心から約30分、岐阜市からも約1時間と、国際ハブ空港としては大変便利な位置にあります。

此の国家的二大プロジェクトの他にJR名古屋駅の大改築工事が着々と進められ、JRセントラルタワーズとして生まれ変わろうとしています。ホテル棟53階、オフィス棟51階のツインタワーで、地下1階から地上11階迄に入居する「ジエイアル名古屋高島屋百貨店」は、売場面積六万五千平方メートルで当地方最大の店舗となります。それは同じ名古屋駅前に位置する名鉄百貨店・メルサ・松坂屋駅前店の

合計に略匹敵するもので、日本を代表する百貨店、「高島屋」と云うブランド名と、広大な売場面積は、大きな魅力を生み出し、その顧客吸引力は強大なものとなるでしょう。名古屋の流通業界にとつては、大きな脅威であり、とりわけ栄地区の三百貨店(松阪屋・名古屋三越・丸栄)への影響は避けられそうにもありません。

百貨店の顧客吸引力は「百貨店の魅力度に比例し、顧客との距離の二乗に逆比例する。」との仮説を立て推計すると、5%程度の売上げ減は念頭に置かねばならないでしょう。平成12年5月開業を睨み、各店とも売上げ減の回避に懸命の努力を重ねるでしょうが、果たしてその結果はどう出るか。各店の力の差が現われるか、興味深い所です。

以上は現実に動き出している大プロジェクトですが、更に壮大な夢のある課題としては、当地方への首都機能移転の問題があります。あらゆる機能が首都圏に集中し過ぎていきます。大災害の防止、リスクの分散、中央政府のスリム化・効率化、行政の地方分権、国土全体の均衡ある発展等の観点から、岐阜県知事、梶原拓氏は、日本国土の中央に位置する岐阜県東濃地域への首都機能の移転を各界に強力に訴へておられます。

この様に二十一世紀に向け、大きく動きつゝある中部に、眼を向け、積極的なご支援を下さいますよう、お願い致します。

最後になりましたが、洛友会にとり、大変お目出たい事をご紹介します。当会顧問であられます本多静雄氏には、本年百回目の誕生日を迎えられ、今尚、囲碁或は狂言の創作に余念のない日々であります。さる人の勧めにより、今春新築された名古屋能楽堂にて、去る9月5日、「百寿翁青佳狂言の会」を催されました。同氏の新作狂言「菊石」、「井戸茶碗」、「三國山」の中でも「三國山」には同氏自ら「青衣の神人」役として舞台上に立たれました。

この狂言はとりわけウィットに富み、満場の笑を誘い狂言の面白さを堪能させるものであります。本多百寿翁にはご健勝にて二〇〇一年にもご自筆狂言に出演せられますよう、皆様と共に、ご祈念申し上げます。

#### 教室だより

#### 京大電気教室

#### 創設百周年記念事業の近況

記念事業実行委員会幹事会  
本事業は、すでにお知らせして

いますように、来年9月創設百周年を迎える事を記念した祝賀行事と、この機会に母校電気系教室の教育・研究活動を継続的に支援する事業からなっております。

前者につきましては、

1・電気系教室の百周年史を出版するためその編集作業を始めております。これには電気系教室発展の歴史、研究室のアクティビティの変遷などをいれるほか、卒業生の方々から、電気教室創設百周年を記念してのご感想や電気電子工学の将来などについての原稿を頂戴いたしたく存じます。一、〇〇〇程度程度の原稿を平成10年2月末までに、末尾記載の宛先にご送付下さるようお願い致します。

なお、別途、各学年の思い出の記事をご投稿頂きたく、各年度の幹事の方々でご相談のうえ、三、〇〇〇程度程度の原稿をご準備頂けると幸いです。この際、記念となる写真などもお添え頂ければなお幸いです。この件では各ご卒業年次の洛友会本部評議員を通じてお願いすることを考えておりますが、各年次で対応をお考え下さるようお願い致します。  
2・来年9月26日(土)午後12時に記念式典、記念講演会、記念パーティを予定しております。詳細は改めて洛友会報その他でお知らせ致します。

3・これらのために洛友会会員の方々に醸金をお願い致してまいりましたが9月15日現在、醸金総額は約二、〇〇〇万円となっております。

また後者の母校電気系教室教育

・研究活動の継続的支援につきましては、企業からのご寄付により基金を作り財団法人を設立して、賛助会員の会費を使わせて頂くことにより、電気系関連教室の留学生を含む特に大学院学生の奨学援助活動を主として行おうとするものであります。なおご承知のような経済状況の中で、また京都大学百周年記念事業ですにご協力をお願いしている関係もあり、企業からのご寄付は大変難しい状況にはありますが、法人化のためにも3億円の基金を必要としますので、この事業を成功させるために是非ご協力をお願い致したく存じます。すでに記念事業の実行委員の方々を通じてお願いを始めておりますが、事情ご理解のうえご支援のほど宜しくお願い致します。

なお電気百周年記念事業関係の醸金その他のお問い合わせは左記にお願い致します。  
〒606 京都市左京区吉田河原町14  
(財)近畿発明センター内  
京都大学電気百周年  
記念事業実行委員会事務局  
電話075-752-5777

また百周年史編集は京都大学工学部電気電子工学科で行われており、その窓口は  
〒606-01 京都市左京区吉田本町  
京都大学工学部電気電子工学科

松波弘之教授(075-753-5340)

藤田茂夫教授(075-753-5363)

奥村浩士教授(075-753-5330)

へ原稿はこちらへお送りください。

平成9年度

電気系教室懇話会のご案内

電気系教室の懇話会は、卒業生、在校生ならびに教職員を結ぶ場として毎年秋に開催されておりますが、本年も左記のような講演会、懇親会の二部立ての企画で開催致しますので、会員の皆様にはぜひ御参加の上、互いに親睦を深めて戴きたく御案内申し上げます。

また、当日は京都大学創立百周年記念の展覧会も開催されておりますので、合わせて御参加下さい。

開催日 平成9年11月21日(金)

第一部 講演会(15:00~17:30)

於：電気総合館中講義室

1・「諸先輩の言葉から」  
名誉教授 林 宗明(昭27年卒)

2・「制御情報システム分野のグ

ローバル化・オープン化とフランスでの会社経営の思い出」

横河電機(株)技術開発本部

理事 山本 茂(昭38年卒)

3・「電力システムの発展と展望」

電力中央研究所

狛江研究所 首席研究員

林 敏之(昭44年卒)

第二部 懇親会(18:00~19:30)

於：吉田(旧教養部)生協食堂

参加費：卒業生・教職員

一、〇〇〇円

学生 五〇〇円

橋 邦英(推薦会員)

京都大学創立百周年

記念展覧会

ご承知のように、本平成9年(一九九七年)は京都大学創立百周年にあたり、これを記念して「知的生産の伝統と未来」を主題とする京都大学創立百周年記念展覧会が開催されます。工学部・工学研究科では、左記の要領にて「工学事始め」コーナーを設けて、土木、機械、電気、工業化学、採鉱冶金の各学科の創設当時を振り返ります。

日時：平成9年10月28日(火)~

11月24日(月)

9:30~16:30まで。

但し、11月10日(月)と11月17日(月)は休館。

場所：京都大学博物館

さらに、工学部・工学研究科では、現在の教育・研究を見つめ、未来を展望する意味で、工学研究科サテライト展覧会を開催することになっております。電気系教室では、「電気・情報系サテライト」を左記の要領で開催します。

日時：平成9年11月17日(月)~

11月24日(月)

9:30~16:30まで。

場所：京都大学工学部国際交流室

(旧電気工学科)セミナー室。

以上二つの展覧会が企画されておりますので、洛友会会員の皆様にはこの百周年記念展覧会に振る

つてご参加戴きますようご案内申し上げます。

橋 邦英(推薦会員)

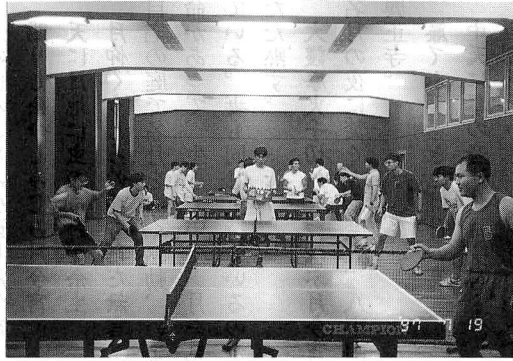
京大ー阪大電気系教室

交歓スポーツ大会報告

毎年夏休み前の恒例行事である、京大ー阪大電気系教室交歓スポーツ大会が、7月19日(土)の午後、京大側の主催で行なわれました。今年度は第40回記念大会ということもあり、ぜひとも連続優勝をおさめたい京大としては、準備段階から、各監督を中心に、人材の発掘・獲得に奔走いたしました。その

のかいあって、京大からは、上田

院亮教授(電気工学専攻長)、橘邦英教授(電子物性工学専攻長)をはじめ、教職員、学生合わせて80名近い方々に参加いただきました。会場は今年も関西電力(株)のご厚意により、同社水無瀬体育施設をお借りいたしました。



当日は、朝から気温がどんどん上がり、競技開始時には35度を越える猛暑でした。用意したジュース類もすぐになくなり、暑さと闘いながらの、文字どおりの熱戦となりました。

競技の結果は、  
 軟式野球 阪大 7-5 京大  
 ソフトボール 〃 8-9 〃  
 テニス 〃 4-5 〃  
 バレーボール 〃 2-0 〃  
 卓球 〃 7-8 〃  
 でした。平成4年度から5連勝中

のバレーボールが惜しくも破れ連勝記録が途絶えてしまったのが残念でした。5種目中3種目で勝利をおさめた京大が、昨年引き続き総合優勝をおさめました。引き続き行なわれた懇親会では、ビールが次々と消費され、日焼けした顔がいい色に染まりました。各監督のスピーチでは、今年敗の思いがこめられ、ビールの勢いも手伝って、昼間の闘いにおとらぬ舌戦が繰り広げられました。最後に、両校の先生のご挨拶で

会員寄稿

続 私の俳句

川端太郎(昭和8年卒)

前回は春の俳句、特にさくらの句を書いたが、今般は秋の俳句、特に紅葉の句、月の句等を選んで書く事にした。

紅葉狩みち自づから三千院

紅葉を賞でながら大原のみちを歩いて行くと、自然に三千院となる。

紅葉浄土はた又火焰地獄とも

三千院の奥庭の紅葉の印象である。紅葉の浄土の中しばらく立っている、燃え盛る火焰地獄の如き紅葉である。

来年度の再会を約束してお開きとなりました。来年度は、阪大側の主催で行われる予定です。

なお、手元にある資料によりまずと、通算成績は、京大の15勝19負4分(不明)となっており、まず勝率5割をめざして来年度以降も頑張りたいと思います。

最後に、両校の先生のご挨拶で、水無瀬体育施設の方々、大会を盛り上げて下さった監督・選手の皆様、およびサポートをいただきました洛友会に感謝いたします。

多田博一(推薦会員)



血天井由緒かなしき紅葉寺

関ヶ原合戦の直前、伏見城を死守した徳川勢が、石田三成軍に全滅させられた廊下の血染めの板を剥

がし、寺の廊下の天井板とした。三千院に近い森の中にある一寺の由緒である。

時雨傘催会ひて大原御幸みち 三千院を経て寂光院を訪ふ。平家物語に有名な大原御幸みちである。折からのしぐれに、同行の妻と傘を催会いにさして行つた。23年前の秋の楽しい一日であった。

紅葉ここらまだほろ酔ひで

ありにけり

山頂は、もう紅葉の盛り、登り口はまだ薄紅葉乍ら、もう紅葉狩の客で賑か。紅葉は、ほろ酔いである。招かれしはこの紅葉かと

打ち眺め

先師の静養先、富士の山中湖畔に紅葉を見に来てはとお誘ひを受けた。その時の印象。あ、先生が招かれたのは、此處のこの景色を見よとのことであつたのか。誠に一溪の燃えたつ素晴しさ。

芒まで紅葉づり迎へ呉れにけり

紅葉だけで無く、一面の芒まで、紅葉して迎えて呉れている。

汀にはいつも詩がある草紅葉

川べり、湖べりは、詩の宝庫である。汀の草が、先づそこだけ紅葉している。

この一樹もて足る今日の紅葉狩

紅葉を見に訪れたところ、まだ殆んど紅葉していない。これは早過ぎた、とちよつとがっかり、それでも山頂まで上ると一樹だけ見事

に紅葉していた。

押し寄せる紅葉へ閉ざす 大玻璃戸

大きな硝子窓の外まで紅葉が押し寄せている。上高地ホテルの印象

濃紅葉の景へ城門開け放つ

開け放たれている山城の門を通して、燃え立つ紅葉の山と谿の景色が見える。ここは金華山岐阜城であった。

燈一般ごとの濃もみぢ薄もみぢ

急な石段を一段づつ登ってゆく。辺りには、濃もみぢ、薄もみぢで一杯である。

近づけばのけ反る天守蔭もみぢ

天守閣に近づけば、近づくと、のけ反る感じ

萬もみぢ城の石組豪放に

豪放な城の石組みに、蔦もみぢがまとっている。

四方の山紅葉づる

どぶろく祭かな 飛騨白川郷のどぶろく祭は、四方の山々の紅葉の盛りの頃である。

紅葉濃し心経の声岩屋より

四国小豆島の八十八ヶ所 日に向ふ径となりゆく紅葉溪

行く手から日が射して来る紅葉溪

のみち、紅葉の色が殊に日に透けて燃える。

紅葉散る木浅日よぎり又よぎり

幾すじもの木浅日、それをよぎるたびに、散紅葉が光る。

水急ぐ散り浮く紅葉奪ひ去り

人に見せ惜しむように、流れが散紅葉を、奪い去ってゆく。  
 作務僧の鉢巻ゆゆし紅葉焚く  
 鉢巻をしている割には、静かな作業

ふと現るる霧の切れ間の

崖もみぢら

戸隠山の印象。霧の切れ間に、ちらと見えた屏風岩のみみぢら。

昏れ初めて昏れゆく迅き冬紅葉

冬になつてもまだ散らず燃えている紅葉、暮れかけたかと思うと、

忽ち紅葉も暮れてしまう。

人の世のこみな速し月今宵

賜りし余命しみじみ月今宵

天に月地に虫の声わが余生

月仰ぐうしろの妻もただ無言

自宅の庭で名月を仰ぐ感動、いま命があつて、生きていて、月を見ている。妻も同じ気持でいるのか

ただ黙す。

大護摩火千切れ吹っ飛ぶ月今宵

名月の夜に焚く大護摩火、八事山興正寺。

簾てふ簾巻き上げ月の宴

中天に琴の音流れ月今宵

この三句は、名古屋白鳥庭園の月見の宴の句である。無数の池を配置した庭園、池に面する亭の簾は

すべて巻き上げてある。亭では、

琴を弾き、平家琵琶が語られる。

華やかな月見の宴である。

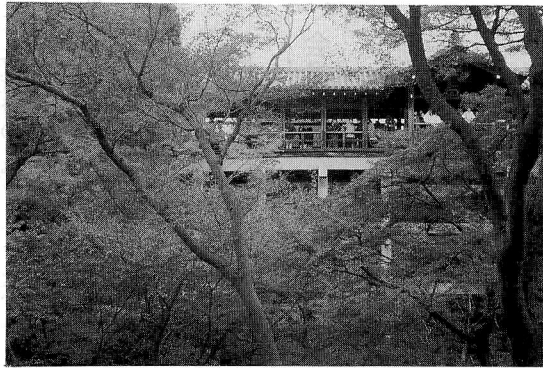
その面を旅客機すぎる今日の月

近くの空港へ着陸体勢で進む旅客機が、水平線に浮び出た名月の面を、よぎってゆく。恐らく毎日繰返される景色であらうが、月見の人々にとつては、珍しい景色である。

柴折戸の開けてありたる

雨月かな

名月の夜に雨が降つて、折角の月は見えない。柴折戸を開けて月見の用意をしたが、それはそのまま開けてある。



磯波夜眼にも白し十三夜

窓開けて浪音を聞く十三夜

後れ来る妻待ち仰ぐ十三夜

いつの間に妻も来て待つ十三夜

大王岬泊り、はからずも旧曆九月十三日の月見となった。名月の頃

ようは、どちらかと言えば、風も

寒く、鳴く虫もない。それだけ

に、月光は冴えわたり、岩礁に碎ける波の白さが、身に沁みる。

深秋の引く波の曳く砂利の音

熊野七里御浜海岸、波が荒く、砂は全く無い。小石と砂利ばかりの海岸である。小石の中には、良質

の黒碁石となる石が含まれている

荒波が寄せて、それが引くたびに

砂利を曳いてゆく音が激しくつづ

く。ざらざらざら。ごう〜〜。

林泉しづか秋つかの間に

かく深み

禅苑の池をめぐる石と樹の布置、

林泉を「しま」と読む。知らぬ間

に秋がこんなに深まっているのだ

と痛感する静寂。

佇つてゐて忘れた頃に

ばったんこもう打ちそうでまだ

打ち忘れあるには非ず

ばったんこ

ばったんこは、添水、僧都、猪威

し、とも云ふ。この三句は、京都

詩仙堂の景色である。笕の水が、

枡一杯になると、その重みで枡が

もち上り、水がざあとこぼれると

「ばったん」と枡が下りて台を打

つ誠に静かな、のんびりした音で

ある。そんな音だけで、いろいろ

俳句が生れるのが楽しい。俳句の

言葉遊びとも云えよう。

滝音に紛れ紛ればったんこ

遠ざかるほど冴えばったんこ

己が打つ音をさびしみ

ばったんこ

これは名古屋東山植物園の景色。ばったんこから遠ざかる程、山にひびく音が大きくなる道がある。そんな発見。

わが心鳥となり翔つ天高し

天高しこの大いなるがらんど

思ふこと今何も無し天高し

秋晴の澄み切つた天の高さ深さ。

天高しは、秋の季語、自分の心が

鳥となつて天を翔け廻る想い。幼

い頃には、そんな夢を見た記憶が

ある。句手帳を開いて、秋の句を

拾い上げてゆくと、ここ2、3年

の間でも、随分いろいろな所へ出

掛け、いろいろな句を作っている

ものだと思ふ。俳句は、私にとつ

て日記であり、独り言である。花

や木や、池、空と語り合ふ会話で

もある。楽しきかな俳句である。

### 戦中派の学生生活(V)

副会長 近藤文治(昭18年卒)

(ホ)てんぶら学生

何時頃だったか今となつては定かでない。大東亜戦争が勃発して可なり経つてからのことであるが、まだそれ程戦局が深刻ではなかつた頃の出来事である。当時、今の祇園の歌舞練場が映画館になつて

いた。ある日の午後、丁度学期末の試験が終了したので、映画でも見に行こうかと言うことになって友達数人で連れだつて歌舞練場の映画館に出かけた。どんな映画が掛かっていたのか覚えていないが映画が跳ねてから、試験も終わったことだし、のんびりした気分であらう。花見小路から四条通りを西へ河原町に向かつてぶらぶら歩いていたら、丁度四条大和大路東北角の交番(今でもある)の前を通り掛かったら、お巡りが中から手招きしている。何の用事かと不審に思いながら、狭い交番の中へ2、3人が入ったら

「おい！こんな時間に何をうるうるしとるのか。非常時をどう考へとるのか。」とまでは何とか黙つて聞いていたが、最後の言葉

「てんぶら学生(偽学生のこと・衣で中味を隠している)と違うか。」にはさすがに頭にカチンときた。真正正銘の京都帝国大学の学生を捉えててんぶら学生とはなんたる暴言！てんぶら呼ばわりされる覚えは毛頭ないと一斉に抗議した。しかし試験が終わつて映画を見にきた位の説明では信用してくれない。押し問答をしている内に、我々が揃つて金色のTの衿章を着けているのに気が付き、

「衿に着けている記事はなんだ？」

「Tは工学部の学生であること  
を意味する記事なんです。」  
ここに至って自分の間違いに気が  
付き出したらしい。その内、我々  
の仲間の一人が陸軍の委託学生で、  
陸軍のマークである星の記章を衿  
に着けているのを見付け

「その星印はなんだ？」  
「陸軍の委託学生と言って、卒  
業すれば軍人になることを約束し  
た学生の印です。」  
この答えて完全に勝負がついた。  
お巡りは「すまん すまん」と平  
謝り。聞けばこのお巡り、ついで  
の間戦地から帰ってきたばかりの  
陸軍軍曹であるとか。なるほど軍  
曹では委託学生には頭が上がりな  
い。なぜなら卒業すれば少尉  
に任官するのだから。あるいは大  
学生だから陸軍大学の学生に相当  
すると考えたのかも知れない。

今の時代には想像もできない話  
であるが、我々の学生時代は、ウ  
イークデーに昼間街をうろろす  
ることさえ許されなかったのだら  
う。厳しい青春時代であった。

(ハ)高梁飯(こうりゃんめし)

2回生の夏前だったと思う。大  
東亜戦争もまだ勝ち戦の時代で、  
食料も主食の米を始めまだまだ豊  
富で配給切符制が実施されていな  
かった。それで街の食堂でご飯類  
も自由に食べることができた時代

である。ある日、何時もの通り昼  
食を取るため百万遍付近の食堂に  
入った。そこで出されたご飯が赤  
飯にしては色が悪く茶色がかって  
いる。口に入れると、米はもち米  
ではないし、小豆の色も黒茶色で  
硬さも硬い。明らかに赤飯ではな  
い。それに、第一、何事もない普  
通の日であるのに赤飯が出る筈が  
ない。こんなに不味い赤飯なら白  
いご飯の方が余程ましだとは思っ  
たが、折角金を払うのだし、周囲  
の人は平気で食べているので、自  
分だけが食べないのも業腹だった  
ので辛抱して全部平らげた。しか  
し明らかにあれは赤飯ではない。  
不審に思いながら教室に帰って友  
達に尋ねたら

「お前知らんのか。あれは高梁  
飯言、うんや。」  
私はアツと息をのんだ。言葉で  
は聞いていた。高梁は満州の特産  
品で、内地では油粕と共に家畜の  
飼料として使用されているもので  
ある。牛馬や豚の食べ物である。  
それを横取りして人間様が食べる  
ところまで、食料事情は悪化して  
いたのである。

私の家では農地を可なり持ち、  
母や叔父夫婦それに下男までいた  
ので、農地の一部を自作していた  
お陰で、農家として登録され、そ  
の後の食料難の時代でも一日一人  
当たり2合の割合で保有米を確保

していた。世間全体がそれ程食料  
難の時代でもなかったし、わが家  
では米には不自由な思いを全くし  
ていなかった。外食食堂では既に  
高梁飯を食わせていることは聞い  
てはいたが、実物は知らなかった  
のである。

このことがあつてから弁当持参  
に切り替え、用務員室でお茶を貰  
って教室で昼食を取ることにした。  
(つづく)

鳥養先生の脱線のススメ

— I Eとの出逢い —

井上光生(昭23年卒)

私は昭和20年終戦の年に電気工  
学科に入学し、工学部故に徴兵延  
期を許され終戦の日迄の毎日、密  
度の高い緊張の日々を送った。そ  
の中でも特に思い出すのは、故鳥  
養利三郎先生の講義である。鳥養  
先生は終戦後直ちに総長に就任さ  
れ、私達のクラスは先生に直接教  
えを受けた最後の学生で、僅か半  
年しか講義を聞くことができな  
かったが、今なお忘れ難い。ことに  
先生の講義中の脱線は、戦時中の  
超過密スケジュールの学生にとつ  
て珠玉の清涼剤であった。その時  
はあまり理解出来なかったが、卒  
業後の人生で何度も是だなどと思

当たったことがあり「講義内容以  
外の脱線のようにみえることも、  
ノートを取れ。」との先輩の教え  
を守らなかつたことを悔いている。  
先生は難解な電磁気学の講義の  
合間に、「電気卒業者の中には  
化学屋・冶金屋・機械屋等の本職  
顔負けの新分野を開拓し、脱線し  
て活躍している人がある。その逆  
は聞かない。電気屋は融通が利く  
んだ。脱線も大いに結構。」と語  
られた。「本業である電気工学を  
学問的に究めることは本道である  
が、それ以外の分野にも広い視野  
を持ち、自分で考え、新しい分野  
を切り開いていくことが大切であ  
る。そのためには、産業、社会、  
人間性等、学問以外の事にも目を  
向けることが肝要である。」との  
「脱線」の教えが、他日私の人生  
の進路を決めることとなった。

先生の「脱線」という言葉の意  
を真に理解できるきっかけになっ  
たのは、社会に出て鳥津製作所に  
就職し、無我夢中の工場勤務を始  
めて間なしに米国留学を経験でき  
たことである。私は、米国政府の  
留学生試験(被占領国ガリオア・  
フルブライト交換留学生)に合格  
した。当時此の留学制度は一般の  
日本人が海外へ行く唯一の方法で  
あった。留学生は学業の師、心の  
師(宗教家など精神面の指導者)、  
地元(地域・職域の長)、計3人の

紹介状を持参せよとの事で、近藤  
文治先生にお願いに伺った所、鳥  
養先生にお願いする方がよいと、  
自らお口添えを賜った。恐る恐る  
総長室へ何うと鳥養先生はニコニ  
コ顔で「鬼畜米英とは赤鬼か白鬼  
か、シカと見届けて来給へ。」と  
言いながら紹介状を下さった。「ロ  
ータークラブと言うのがあるか  
ら祈りがあれば覗いて見給まえ。」  
とも言われたがその意味は良く分  
からなかった。  
一九五一年七月十三日(金曜日)、  
2万トン級の米軍輸送船に乗り星  
条旗翻る横浜港を出帆した。当時  
はマッカーサー元帥の解任直後で  
世情騒然とし、「留学とはアメリ  
カの謀略で、洋上で皆殺しにされ  
る」とか「留守中に赤色革命が起  
る」とか様々なデマが飛び水杯を  
して家を出た。リッジウェイ將軍  
発行のパスポートを手に朝鮮動乱  
の帰還兵と共にアメリカの軍艦に  
守られて厳重な灯火管制の下、ノ  
ンストップでサンフランシスコへ  
向かった。我々日本人があれ程懸  
命に戦ったのに何故負けたのか、  
米国工業力の正体を見て、日本の  
再建に役立つ物を持ち帰ろう、と  
の想いを胸にアメリカの土を踏ん  
だ。適地へ宝探しに乗込む勢で身  
構えて上陸した私達を、ミルズ女  
子大学の方々が深夜まで食事を用  
意して待ち、暖かく迎えて呉れた。

紹介状を持参せよとの事で、近藤  
文治先生にお願いに伺った所、鳥  
養先生にお願いする方がよいと、  
自らお口添えを賜った。恐る恐る  
総長室へ何うと鳥養先生はニコニ  
コ顔で「鬼畜米英とは赤鬼か白鬼  
か、シカと見届けて来給へ。」と  
言いながら紹介状を下さった。「ロ  
ータークラブと言うのがあるか  
ら祈りがあれば覗いて見給まえ。」  
とも言われたがその意味は良く分  
からなかった。  
一九五一年七月十三日(金曜日)、  
2万トン級の米軍輸送船に乗り星  
条旗翻る横浜港を出帆した。当時  
はマッカーサー元帥の解任直後で  
世情騒然とし、「留学とはアメリ  
カの謀略で、洋上で皆殺しにされ  
る」とか「留守中に赤色革命が起  
る」とか様々なデマが飛び水杯を  
して家を出た。リッジウェイ將軍  
発行のパスポートを手に朝鮮動乱  
の帰還兵と共にアメリカの軍艦に  
守られて厳重な灯火管制の下、ノ  
ンストップでサンフランシスコへ  
向かった。我々日本人があれ程懸  
命に戦ったのに何故負けたのか、  
米国工業力の正体を見て、日本の  
再建に役立つ物を持ち帰ろう、と  
の想いを胸にアメリカの土を踏ん  
だ。適地へ宝探しに乗込む勢で身  
構えて上陸した私達を、ミルズ女  
子大学の方々が深夜まで食事を用  
意して待ち、暖かく迎えて呉れた。

大陸横断鉄道でロッキー山脈を越え、白骨の野牛の群がうずくまるネバダ砂漠を横断し3日2晩かかってシカゴに辿り着いた。先ずケンタッキー大学で40日間、英語と生活習慣の手ほどきを受けた後オハイオ州立大学大学院に入った。

島津製作所で担当していた電子顕微鏡を専攻する為その権威プリバース教授がおられるオハイオ州立大学の大学院(電気工学科)を選んだが電子光学・電子工学・電磁気学・ベクトル解析の履修を必須とされた。

電気工学を学ぶ中に、水力発電所を見学する機会を得た。その時鳥養先生が「宇治発電所には、ダム横に鮎が琵琶湖へ遡上できる水路を設けてある。発電所の見学に行つて鮎の道を見ていないとは何事か。」と言われたことを思い出した。私は、この「鮎の道」の話を持ち出し、「この発電所にも、魚が遡上する道があるか。」と尋ねたところ、アメリカ人は大いに驚愕し日本の技術水準の高さを評価した。これは鳥養先生が「脱線」に名を借りて単に発電の技術のみでなく技術の社会性と自然保護の理念、技術と自然の調和の意義を半世紀も前に教育されていた一例である。

やがて講義が物足りなくなり指導教授に相談した結果、必須科目

の枠が外された。こうして京大の教育水準の高さと丁寧さを知り、母校の恩師に感謝した。その反面、実験設備と材料は豊富で、当時日本では数少なかった電子顕微鏡を一人で一台を使う事を許された。しかし、留学期間は1年に限られ、次の順番を待つ多くの人にチャンスを譲るきまりであったので、この1年間に如何に有意義に多くのことを学ぶかということが、常に念頭にあった。

一方鳥養先生の紹介状が次第に威力を発揮し、学長の自宅に招かれ更に此の学長の紹介で有難い人脈が広がり、GE、GM等世界のトップ企業や政府研究機関のみならず裁判所、州庁、市役所等の見学の機会を得た。ロータリークラブにも度々招かれ、地元企業・金融機関の見学や、市民との交流の緒が開けた。

工場視察の奨学金を別に貰つてウエスティングハウス・RCA・GE・GM等の巨大工場や地元中小企業の製造現場を見る中に、日本の自社工場との根本的な違いに気がついた。日本では作業者が自分の仕事の仕方を自分で知っていて前後工程との取り合わせを考えて働く。手先が器用で作業速度が速く長時間勤勉に働く。現場監督は八方に目を配り終日懸命に飛び回る。しかるに手持ちと不良品が

発生しやすく、工期が乱れコスト高となり勝ちで国民皆が貧しい。米国では持ち場のみを教えられた通りやり、時間が来れば早々と帰る。監督は睨みを利かせながら事務所で悠然と構えている。ところが製品は安く速くムラなく出来て人々は高賃金と余暇を得ている。

何処がちがうのか?現場に腰を据えて考えた。現場を蔭で支える物造りの技術が有る筈だ。これがイグダストリアル エンジニアリング(IE)との出逢いであった。敗れた日本に役立つ技術はこれだと直感した。残された時間は僅かなので指導教官に相談し、電子顕微鏡の研究は実験中心とし、IEの基本を学ぶこととした。鳥養先生の脱線のススメを実践しようと心に決めた。

IEの基本姿勢は、現場で学び現場に学ぶ事にある。実態把握に基づく徹底した現場主義の実学である。実態を掴むためには、権限を持つ者は自ら現場に立ち己の目で見て聞き考える事が必須である。彼等の大切な仕事は実態をデータ化・数値化する事にある。計測不能と思われていた仕事の実態をも時間の単位等で数値化・分析する事によって、作業研究・作業測定・方法改善・作業計画などを科学的に行なうことができる。工業の経営には科学的思考と手法が大切

である。これを経営工学(Management science)という。IEは、機械・電気・化学・経済・財務等の学問と連携する。(昨今言われる学際である。)当時日本ではQCを知る人も稀で、学問・研究・設計を貴ぶ頭脳集団とカン・経験・修練を身上とする技能集団とに分化していた。作業計画の技術・方法改善の技術・工場レイアウト・物造りとコストダウンの技術等を工学として体系化し重視する風土は乏しかった。製造の技術は経験豊富な技術者ならば常識だとか、現場に任せよという考え方が主流であった。私は日米の工業生産力の違いはここにあると確信してIEの根本精神を体に叩き込み、日本の工業の復興に役立ちたいと願って帰国した。

帰国後、島津製作所で多品種少量生産におけるIEの活用と経営におけるコンピュータシステムの確立に専念し、晩年、子会社において信念どおり存分にIEを実践する機会を与えられた。顧みて悔いの無い人生を歩ませて頂いたのは、上司・恩師・友人・協力者ら多くの方々の恩は言う迄もないが、人生の機転・脱線の原点はフルブライト留学の密度濃い1年間に凝縮される。感受性豊かな青年時代の留学のお蔭でその後の世界観・経営理念・人格形成などの面でも

多くのものを得た事を感謝している。すべての元は京都大学電気工学科で学んだお蔭であることは言うまでもない。なお鳥養先生から頂いた「鬼畜米英の正体を見届ける宿題」については「先人観や人の話を丸呑みせず自分が直接相手になぶつかって実態を見よ」とのお教えかと思う。

## ヨットウーマン

### 今給黎教子さんの講演

佐々木隆雄(昭47年卒)

今年6月、5年前に女性で初めてヨットによる単独世界一周を成し遂げた、今給黎教子(いまきいれ・きょうこ)さんの講演をお聴きする機会がありましたので、ご紹介いたします。彼女は洛友会とは関係がありませんが、その生き方は洛友会の皆さんも喝采を贈られるのではないかと思います。

**きつかけ** 中学2年のとき「タ

グ号の冒険」という、16才の少年がヨットで世界一周をする物語を読んだのがきつかけで、ヨットに惹き寄せられた。それまではヨットをほとんど知らなかった。それを見てからすぐに、自転車海岸へ走り、ヨットを探した。ヨットに乗った人と話すことができ、鹿

児島の高校にヨット部があることを知った。

高校3年間は、ヨットばかりしていた。はみ出しっ子でいつも先生から「おまえは高校に何しにきたんだ」と聞かれ、「ヨットに乗りよにきました」と答えていた。高校では毎年国体に出たが、タイムを競う競技ばかりだったので、どこか満たされず「世界一周をしてみたい」という思いが常に離れなかった。

**世界一周の夢** 私の父は、私が小学校のときに病死し、私は母の手で育てられた。そういう事情もあり高校卒業後は、ヨット部があるということ、鹿児島市役所に就職した。面接で「なぜ市役所に入りたいのですか」と聞かれ、「ヨットがしたいからです」と答えて、係の人を面食らわしてしまったようだ。

市役所でも国体に出場を続けたが、やはり「世界一周をしてみたい」という思いがつきまとった。仕事が面白くないわけではなかったが、市役所は転勤が多く、しかも「総務課」「観光課」「住民課」などと、脈絡のない異動が多いのも性に合わなかった。それはそれでひとつの考え方と思うが、こうした転勤で「自分は何をやりたいのか」ということが、浮かんで来ないのがこたえた。またヨットの

ための年休が取りにくいこともあって、仕事をとるかヨットをとるかで真剣に悩んだ。相談したら、上司、同僚、労働組合とも「両立できるよ」といつてくれ、みんな応援してくれた。市長さんも市のPRになるからといってくれた。そこで自治省に問い合わせたが、「前例がない」とのひとことと却下されてしまった。

**夢見る上司** 夢をとるか、安定した生活をとるか、思い悩んで、最後に上司に相談にいったところ、その上司は「今給黎さん、何を迷っているんです。仕事を止めなさい。世界一周が夢なんだろう。夢に向かつて頑張りなさい。わたしも若い頃あなたと同じように夢を持っていたが、果たせなかった。あなたには夢にチャレンジしてもらいたい」とずばりいわれた。これで決心がついた。今もこのとき

**太平洋横断** 22才で市役所をやめて、まず太平洋横断に挑戦した。ヨットを借りたのははじめ、資金として全部で1千万円を借金した。出発してから70日でサンフランシスコに着いたが、それまで1日たりとも人に会わないということがなかった。毎日泣きベソをかいていた。

のは私が初めてだったらいい。それまでは船を売って帰ったり、貨物船で運ぶパターンだったが、私の場合、ヨットは借り物だし、お金がなかった。帆走して帰るしかなかった。帰りは72日で日本に着いた。

帰ったら、仲間や、家族、親戚から「もう満足しただろう。もう普通の生活にもどるのしょう」と何回もいわれたが、私には世界一周の夢があるので、まともな生活は想像できなかった。

**この世で一番怖いもの** 25才になり、世界一周に挑むことを決意した。世界一周といっても寄港しながらではなく、人のやったことのない、ずーっと海上で決めた。自分には目立ちたがり屋のところもあるのだと思う。それから世界中の気象、海象データを集めた。条件では東南アジアを通るルートが穏やかでいいのだが、このあたりは、海賊が出るということで、大きな船からヨットのようなもので襲われたこともあり、女一人では危険なので、あきらめざるをえなかった。結局一番怖いのは、荒れ狂う海よりも、吹き荒れる暴風よりも、人間だということをつくづく実感した。

**フィンランド製ヨット** 計画にあたって、資金造りが問題だった。当初、予算2千万円くらいと思っ

ていたが、自分はヨットだけは絶対に信頼できるものにしたかった。フィンランドに、優れたものがある聞き、現地まで見に行つた。そしてその安全性を確信したので値段を聞いたら、ぶつたまげた。「4千万円」だという。これだけで想定のは2倍ではないか。

あと諸々を加えれば、5千万円かかることになる。「これはもうスポンサーを探さなければ」と思い、いろんな会社に頼んでまわつたが、すべて断られた。

どこの会社でも必ず「航海は成功しますか」と聞かれ、ありのままに「5分5分です」というと、それまで大いに乗り気で対応されていた方が、ほとんど顔色を変えた。「それで失敗すればどうなるんです?」「失敗すれば、ヨットは沈んで私がいなくなります。」日本の会社では、スポンサーになつた場合、航海が失敗でもすれはかえって会社のイメージダウンとなるので嫌われたようだ。こうして私は世間の厳しさを思い知つた。

**保険** そうこうしているうちに、保険料年間120万円のヨット保険というものがあり、もちろん私自身にも生命保険をかけられることに、胸を張って銀行に金を借りに行つた。最初は「今までに例がない。少し待ってほしい」といわれた。

数日後「こんなばかなことをする日本人は最近いない、面白いと上司がいつている。おまけにスポンサーになって別途、5百万円出そうといっている」との連絡が入つた。スポンサーの方は、丁寧に断りして、5千万円の借金だけした。

**チャレンジ精神のない風土** 金策に駆け回つた1年だったが、日本の企業の厳しさが十分身にしみた1年だった。成功して帰還すると、企業の態度が変わり、社長の対談の申し込み等がひきもきらなかつた。日本の社会には、チャレンジ精神というものが理解されない風土がある。たとえば、世界一周ヨットレースがあり、これは非常に危険な競技で、死者もでるくらいだが、海外の主催者からは決してやめようという声は出ない。

日本なら、1人でも死者が出たりますと、すぐに「そうまでして競技を続けることはない」という声が出て、やめることになるのではないか。やめるのはいとも簡単だが、世界中のヨットマンがこのレースの出場を夢見て、毎日訓練に励んでいることを忘れてはいけな

い。実際世界は、太古の昔からチャレンジ精神で動いてきている。私のまわりの仲間たちは「金はないが、身体で応援するよ」といつて、ヨットの強化・補

修などを手伝ってくれ、私が落ち込んだときなど、「大丈夫、お前なら絶対成功するよ」といっていつも励ましてくれた。

盲腸まで取る(?) 万全の準備

出航までに私は慎重に準備した。女なので、たとえばマストがおれるようなことがあると、修理は不可能だ。従って、私はマストからセール(帆)まで、ありとあらゆる予備品を用意した。もちろんマストは、重量・大きさの制約から実物の半分ほどの簡易マストを特注した。葉の類も知り合いのお医者さんに頼んで、胃薬・風邪薬から、はてはギブスや針・糸(簡単な手術用)まで準備した。変わったもので、重量の制限から、水も1日1リットルの割合程度しか積み込めないの、腎臓の機能に影響がでるかもしれないということと、それに対応する薬まで用意していただいた。先生は身体の高らゆる部位用に、粘土でつくったギブスを30コもつくって下さったが、重量の関係で、5コだけ持っていた。

男性の友達に「こんなものまで持つてゆくのか? こわれたら修理すればいいんじゃないの」といったが、私は女なので力・技術のいずれからも自身がなかった。そのぶん準備には200%といってもいいくらい万全を期した。私以降6名

が挑んで3名が成功して、女では私1人だが、女だからかえって恐れる気持ちが幸いして、慎重な準備をしたことが、成功につながったと思う。

私は航海中に盲腸になつてはいけなかと考えて、先生に「盲腸を取ってください」とお願いした。先生は「それは聞いたことがない。盲腸を取るのはいいが、あとで癒着とかいろいろやつかいなこともおきるんだよ。そこまでいうなら診てあげるけど」といって、検査していただいたら「自分のあいだ盲腸炎にはなりそうもない」との診断で、ようやく断念した。

(以下次号につづく)

北陸からのメッセージ

松本吉永(昭57年卒)

私が初めて京都を訪れたのは、中学校の修学旅行の時でした。その時は、ご多分にもれず、東寺や金閣寺といったお寺を廻り、新京都のお店でお土産を買うという典型的なツアーでありまして、まさかその4年後に自分が京都で暮らすことになろうとは、夢にも思いませんでした。京都には、大学院の2年間を含め丸6年暮らしました。当時は未

だ下宿が一般的でありまして、最初は百万遍に、その後は浄土寺西田町で過ごしました。浄土寺西田町の下宿は、今はもうありませんが、クラシック喫茶ゲート直営でありまして、よくお店で友達と語り合っていたのが、つい昨日の事のように思い出されます。そうこうしているうちに就職の時期となり、後ろ髪を引かれる思いで京都の町を後にし、生まれ故郷の富山に戻って、電力会社に就職しました。社会人となってからは、金沢に2年、富山に8年、東京に2年おりました、この7月からは福井で勤務しています。最初の勤務地である金沢は北陸の小京都といわれ全国的にも有名ですが、犀川べりは鴨川べりと非常に良く似ておりますし、街全体の雰囲気も共通するものが確かに多いと思います。

さて、皆さんは「北陸」という言葉からどのようなイメージをお持ちでしょうか。ちなみに、私の妻は神奈川県出身ですが、結婚前は (1)冬は雪に閉ざされ、人が2階から出入りする (2)曇りの日が多く暗い (3)北に位置し遠い というイメージを持っていたようです。多分、北陸にいらつしやうなことがない方は概ね同じようなイメージをお持ちなのではないでしょうか。そこで、北陸について、データに基づき少し弁護させていただきます。まず、冬の雪ですが、2階から出入りすることはまずありません。積雪は意外に少なく、冬期間の70%は、0~20cm以下という積雪状況です。しかも、北陸自動車道をはじめとする主要道路は、万全の除雪体制と消雪・融雪装置の普及・整備によって、ほとんど無雪化されており、生活や産業への影響はほとんどありません。ちなみに北陸は真冬でも気温は2~3℃と意外に寒くありません。このため道路の雪は、地下水で溶かすことができ、冬期に融雪装置が稼働すると電力消費が伸びる要因にもなっています。

このように平野部では雪の問題はありませんが、山には多くの雪が積もり、各地にスキー場も多くあります。北陸であれば、自宅から1時間以内でどこかのスキー場へ行くことが可能です。また、この雪は、春になると水力発電の貴重なエネルギー源となり、農業用水、工業用水、飲料水として活かされています。水道水で水割りがおいしく飲めるのも北陸ならではの良さではないでしょうか。このように、いまや雪はマイナスの要因ではなく、利雪・活雪の時代に入っています。

次に「曇りの日が多く暗い」ですが、冬を除く北陸の日照時間は、実を言えば東京よりも長いのです。3月から11月の累計日照時間は東京の一、三二〇時間に対し、金沢では一、四〇九時間と89時間も長いデータが出ています。

(昭和36年~平成2年までの30年平均値。国立天文台編「理科年表」より) 能登でソーラーカー・ラリーが行われているのも、このデータからみれば不思議でないことがよくお分かりいただけるのではないのでしょうか。また、夏場は気温もかなり上がり、暑い日が続きます。海水浴場へも30分も車を走らせれば、人ごみの少ない白い砂浜で夏をエンジョイすることができます。富山県の雨晴海岸(あまはら)では海に向こうに雄大な立山連邦が望めますし、石川県の千里浜海岸では砂浜を車で走ることができ、福井県の越前海岸では、サンセットビーチで文字通り海に沈む夕日を見ることができ、最後に「北に位置し遠い」ですが、京都からは確かに北東に位置していますが、北陸の緯度は北緯36~37度で関東とはほぼ同じです。北陸が北だというイメージにはテレビの天気解説の地図も影響しているのではないのでしょうか。テレ

最後に「北に位置し遠い」ですが、京都からは確かに北東に位置していますが、北陸の緯度は北緯36~37度で関東とはほぼ同じです。北陸が北だというイメージにはテレビの天気解説の地図も影響しているのではないのでしょうか。テレ



ビの画面に日本地図を入れるために地図を少し回転させてあり、北陸が関東より北になっています。これを毎日見ているため、北陸が北だというイメージが定着する一因になっていっているのではと前から思っていました。ですから、正確には関東からみると北陸は「北」ではなく「西」の方向になります。

京都―富山間はJR特急サンダーバードで2時間40分、東京―富山間もJRホクホク線の開通によりさらにアクセスが良くなり3時間20分です。(ちなみに、航空機では1時間程度)いずれもほぼ日帰り交通圏にあります。全線開通が熱望されている北陸新幹線が開通すれば、東京―北陸―大阪間がわずか3時間50分で結ばれることとなります。高速道路網は既に北陸自動車道、関越自動車道それぞれ結ばれマイカーでのお越しにも便利となっておりま。

さて、長々と北陸について書いてまいりましたが、平成9年度の経済企画庁発表の新国民生活指標では、福井県が1位、石川県が2位、富山県が5位とベスト5のなかに北陸3県がすべて含まれております。私自身は、北陸で生まれ育ったものですから、このような北陸の良さをあまり意識することはなかったのですが、転勤等で北陸を離れてみて、改めてその魅力

を発見しています。北陸地域は今「住みよい県」から「住みたい県」作りを目指しています。皆さんはもう北陸にいらっしやいましたでしょうか。「まだ」とおっしゃる方は、百聞は一見にしかず、是非一度足を運んでみてはいかがでしょう。

### 子供の頃の読書

安東隆明(昭59年卒)

先日、小学二年生になる息子が学校から一冊の本を借りてきた。古い本で、発行は昭和45年となっている。図書室の隅に積まれてあり、なにか分からないがおもしろそうだったので借りてきたらしい。内容は日本の重化学工業の発展史、製鉄や化学プラントの原理およびその構造や仕組み等で小学生に対する啓蒙書としては、かなり専門的である。ふりがなもついていてるところから低学年も対象としていたと思われるが、いまはこの手の本はあまり見かけなく、少し懐かしい気がして手にして読んでみた。一通り読んでみて息子はすこし難しすぎて理解できないだろうと思ひ、「これは君には難しすぎるよ」と言おうとしたが、思い直し、難しいかもしれないが

おもしろいと思うので読んでみるよう勧めた。かつての自分自身の読書体験が思い起こされたからだ。私自身も小学生の頃は学校の図書室で興味のありそうな本を手当たり次第借りては読んでいた。そして内容は理解できなくても断片的な知識を友達に自慢したりして優越感を覚えたものである。

またある時にふと展望が開け理解できることもあり、このときの悟りが開けたよううれしさで勉強の楽しさを感じ取ることができたような気がする。ただ、残念ながら、これらの知識の対象はいわゆる学校での勉強とは別の所にあることが多く、直接には成績向上に結びついていかなかった。私も含めて、いわゆる「ロケット博士」や「自動車博士」等の一芸者は、ごろごろいたが、たいいてい学校の成績はたいいたことがなかった。

このため親から見れば「無駄な勉強」と写っていたのだと思うが、一方で遊んでいるよりましだと思つて許してくれたのかもしれない。まだまだ小学生は遊んでいられた時代であった。

こうして子供時代に好奇心と知識欲を満たす喜びを覚えていったように思う。しかしながら、受験競争が激しくなつたいまの小生にはこれらの「ゆとり」はあまり許されていないように感じる。

たとえば書店に並ぶ「小学生向き」の本を見てみると、私たちの当時は子供の好奇心を引く本が主で科学読物から戦記物まで幅が広く自らの興味で本を選べた。しかし、現在は小学生から始まる受験勉強のため、学校の勉強のハウトゥ本や参考書そしていわゆる名作文学が棚を大きくしめていて、ほとんどが親が子供に読ませたい類の本となっている。親からは受験勉強に特化した知識を勉強することを求められ、息抜きとしてTVゲームを与えられているのが今の小学生の姿ではないだろうか。これでは知識欲や好奇心が刺激されることは少ないだろう。

物事を知り、理解しようとするのは人間に備わった本質的な能力であると思う。子供は本来あらゆることに興味をもち自ら探索していく能力を持っているものである。受験競争の最大の罪はこの能力を押し殺してしまうことにあるのかもしれない。最近では大学生をはじめとする若い人たちの科学や技術に対する関心が低下してきていると言われているのも、少年時代に好奇心と知識欲を減退させていることと関係が深いと思う。

さて、中国の古典「老子」の中に「無用の用」という言葉がある。たとえば、地面を歩くときに足を置く場所だけがあればよいと考え、

それ以外の空地はすべてなくし、足型だけ残った状態を想像してみると、我々はそこを安心して歩くことが出来るであろうか?無駄な空地があるからこそ安心して足を運ぶことが出来るわけである。

このように一見したところ無用の事柄が大切な本質を支えていることを教えてくれる言葉である。振り返って今の自分をみると、効率や有用性のみを求めがちになっている事に気がつく。子供だけでなく自分自身も忘れていたあの好奇心と知識欲を取り戻さなくてはさあ、今度の休みには息子を連れて図書館に行き、無用の読書を楽しむこととしよう。

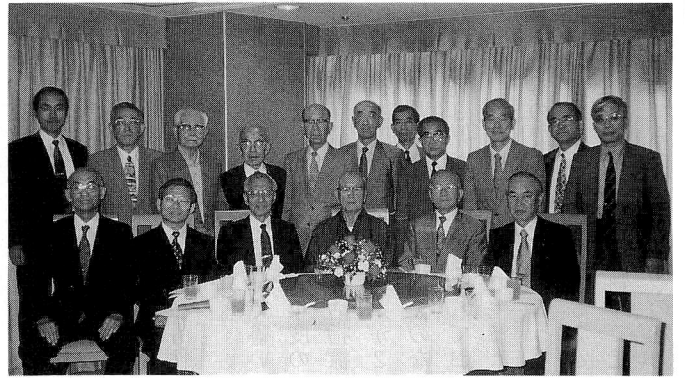
### 支部だより

#### 平成9年度洛友会

#### 中部支部総会報告

中部支部の平成9年度総会は6月21日11時30分から、名古屋駅前の名鉄グランドホテル・鳳凰の間で開催されました。本部、教室から近藤副会長、松重教授にご出席いただき、支部からは今年百回目の誕生日を迎えられた大正13年卒の本多顧問をはじめ、15名が参加しました。

大野支部長の挨拶の後議事に入



りました。まず支部役員については、総務副幹事に昭和33年卒の坂入武彦氏新任したほか、他の役員は全員留任とし可決されました。

次に平成8年度事業および会計報告並びに平成9年度事業計画と予算案が一括してはかられ、満場一致可決されました。

事業計画は平成9年度中部支部事業計画を御覧ください。7月5日(土)の囲碁大会には本多顧問も参加されます。

総会について、近藤副会長から先ず中部支部の本多顧問が今年百回目の誕生日を迎えられたひとに對してお祝いを、さらに同顧問から教室百周年事業に多額のご寄付

を頂いたことに謝辞を述べられました。そして、本多顧問が一八九八年のお生まれで、もう21世紀が間近である事から、「顧問が洛友会で初めて3世紀を生きるという快挙を果たされる事は確実」とお祝いを述べられました。ひき続き本部動向並びに電気教室開設百周年事業について説明と更なる協力要請がありました。ついで松重教授から教室の現況と卒業生の就職状況、今後の動きについて、さらに今回設立された同教授ご担当のベンチャー・ビジネス・ラボラトリーについてお話を伺いました。

総会終了後、記念撮影、ひき続き懇親会に入り、中華料理に舌鼓を打ちながら、本多顧問は別格としても、今年米寿の川端先輩も「本多さんに続けるよう、腕立て伏せをやっている」と、大先輩の健在振りをご披露されました。

恒例の会員スピーチ、近況報告幹事より「最近の新聞コラムに京都大学百周年行事に新学歌制定の企画があったが取り止めになったとある。京都大学には素晴らしい学歌があるのに、殆ど歌われないのは残念、50年前の楽譜が有ったので持参した」と楽譜を配布、ご披露したところ近藤先生始め、かなりの会員が「記憶にある」と一緒に口誦さんで頂きました。

歌詞を次に掲げておきます。

京都大学学歌

下總 皖一曲  
竹内 忠雄 編

(一)九重に花ぞ匂へる  
千年の都にありて  
その土を、朝踏み締め  
その空を、夕べ仰げば  
青雲は極み遙かに  
我等の眼を迎え  
照る日は光たださし  
我等の言葉に映る

(二)緑吹く楠の葉風に  
時の鐘続きて響けば  
人の世に誠立つべく  
現世に誠立つべく  
魂ぎはる生命をこめて  
礎固く築かむ  
伸び行く強き力の  
日出づる国の子我等

午後2時30分、話は尽きませんが、来年の再会を約し散会しました。総務幹事石川進(昭26年卒)

平成9年度  
中部支部事業計画

- 懇親囲碁大会  
日時 7月5日(土)13時  
場所 名古屋通信ビル  
ベルサロン
- 家族同伴 秋の例会

日時 10月18日(土)  
名鉄メルサ西口  
8時30分出發  
行先 彦根・長浜

3 懇親ゴルフ大会  
日時 11月15日(土)  
場所 鳴海カントリークラブ  
4組予定

事務局だより

平成10・11年度用の洛友会会員名簿は目下、編集作業も大詰にきており11月末の完成を目指して頑張っております。

各支部の幹事様には、大変ご多忙中にも拘らず会員異動の情報や賛助会員の広告掲載を勧誘して戴きましたことを、紙面をおかりして厚くお礼を申し上げます。

なお会員の皆様には、名簿記載事項の変更がございましたら、事務局までご連絡下さるようお願い申し上げます。

編集後記

今夏の長期予報では冷夏とのことであったが、エルニーニョ現象の影響で西日本では連日猛暑続きで、3つの台風が上陸し、またこの冬は暖冬だろうと報じられてい

る。しかし本年は例年を上回る豊作で、何よりだと思われます。

京都では日毎、冷込みが増し野山の紅葉が深まってきました。

秋号は大野中部支部長様に巻頭を飾って戴き有難うございました。過去、東京オリンピック・大阪万博などのビッグプロジェクトにより、都市の様相が一変した記憶も新しく、中部圏では活気あふれることでしょう。

また会員の方々からのご投稿によつて、予定どおり発行ができ、バラエティに富んだ紙面ではなかったかと思っております。今後ともどしどし、ご投稿をお待ちしております。

事務局 松本 博

訃報

- 昭2 神先藤五郎 9・9・3
- 昭4 岸田 徹 9・7・28
- 昭4 安本健助 9・7・20
- 昭6 柳父志朗 9・5・21
- 昭8 西村完三 9・8・24
- 昭11 西田 清 9・6・11
- 昭16 岡本 弘 9・9・17
- 昭17 大久保義夫 9・8・18
- 昭26 島田清一 9・8・22
- 昭27 加納忠勝 9・6・2

以上の方々のご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。